

デジタル田園都市国家構想交付金事業評価シート② 【令和4年度地方創生推進分】
(奥秋田サステナブルツーリズムプロジェクト)

		担当課	観光産業課観光商工班
総合戦略における基本目標	基本目標Ⅲ「しごと」 地元産業間の連携による地域活性化プロジェクト 夢が実現する、安定した生活が送れるまちづくり		
事業名	奥秋田サステナブルツーリズムプロジェクト ～地域の強みをサステナブルな取り組みに進化させ、稼ぐ観光へ～ (デジタル田園都市国家構想交付金【地方創生推進タイプ】)	実施年度	令和4年度～令和6年度 (1年目評価)
目的	近年の観光の動向として、観光目的地選定時に「サステナビリティ(持続可能性)」を重視する旅行者が増えており、特に外国人観光客や修学旅行・教育旅行においてその傾向が強くなっている。 観光消費額(消費単価)を挙げる新たな戦略が必要となっている中で、DMO管轄エリアの強みである環境・産業・教育・文化・自然などの様々な分野の取組を、レジャー観光だけでなく持続可能性の高い付加価値を向上させる視点でモノ(商品)とコト(観光)を開発し、「稼ぐ観光、豊かな暮らし」に繋げる。		
実施内容	1. エコツーリズムを核とした新たな市場開拓と稼ぐ仕組みづくり 2. 観光を活用した地域の自然・文化・経済の持続可能性向上のための態勢整備 (1) 地域における持続可能性に配慮した取り組みの拡大支援 (2) 修学旅行・農泊にかかる持続可能な実施基盤の確立 (3) 海外留学生の受け入れのためのプログラム開発、枠組みの整備		
KPI ※令和4年度末目標 ※広域連携全体	①地域への経済波及効果 11,387百万円 ②教育市場(修学旅行・教育旅行・留学)収入 1,564千円 ③農家民宿関連(農泊・農業体験・きりたんぼ作り体験等)収入 780千円 ④来訪者の地域のサステナブルな取り組みに対する評価(5段階評価) 3.09ポイント	KPIに対する成果 ※令和4年度末実績 ※広域連携全体	①地域への経済波及効果 10,760百万円 ②教育市場(修学旅行・教育旅行・留学)収入 4,089千円 ③農家民宿関連(農泊・農業体験・きりたんぼ作り体験等)収入 2,447千円 ④来訪者の地域のサステナブルな取り組みに対する評価(5段階評価) 4.09ポイント

事業費(小坂町分 交付金対象額 交付金は対象経費の1/2)

(単位:円)

	令和4年度		令和5年度
	予算(当初計画申請経費)	決算(対象経費) (交付金交付額)	予算(当初計画申請経費)
事業費	2,430,000	1,376,062 (688,031)	2,528,000

令和4年度の取り組み

【ハード事業】

○なし

【ソフト事業】

①エコツーリズムを核とした新たな市場開拓と稼ぐ仕組みづくり

- ・「マタギツアー」のビジネスモデルの構築(現役マタギを対象としたワークショップの開催、アドベンチャーツーリズムの創出等)
- ・十和田奥入瀬観光機構(登録DMO)と連携した「十和田湖の魅力再発見交流会」の開催
- ・八幡平DMO・VISITはちのへ、かつのDMOと連携した、台湾人観光客向けのレンタカー周遊促進事業の展開
- ・旅行サービス手配業(ランドオペレーター)資格取得
- ・各エリアごとに開催されている観光・地域づくりワークショップグループへの参画
- ・当エリア来訪者を対象とした満足度調査の実施、分析

②観光を活用した地域の自然・文化・経済の持続可能性向上のための態勢整備

(1) 地域における持続可能性に配慮した取り組みの拡大支援

- ・域内の観光事業者らを対象とした「サステナブルツーリズムセミナー」を2回開催
- ・農林水産省のSAVOR JAPAN事業における、認定地域の海外向けオンラインイベント・PR企画の開催
- ・外国人インフルエンサーを活用したエリアプロモーション
- ・ハチ公生誕100年事業を通じた渋谷区の企業・団体等との都市間交流の促進、ワーケーション・企業研修等の提案
- ・有機栽培農産物をはじめとした特産品の販路構築・拡大
- ・都内商店街と地元産直を繋ぐ、産地直送型取引事業「ハチベジ」の展開

(2) 修学旅行・農泊にかかる持続可能な実施基盤の確立

- ・ハロウィン国際スクール安比校とのコネクションの構築、短期修学旅行受け入れに向けた野外体験プログラムの検討
- ・タイ旅行博に参加した旅行事業者との連携による秋田犬ライブ中継PR

(3) 海外留学生受け入れのためのプログラム開発・枠組みの整備

- ・現役マタギを中心としたサステナブルな体験プログラムの造成
- ・マタギや登山ガイドを対象とした、国際資格「野外災害救助法(WAFA)取得のための研修会開催
- ・AKITA INAKA SCHOOLにおける外国人留学生の受け入れや体験プログラム構築等のサポート

今後の取り組み

新型コロナウイルス感染拡大による旅行需要の激減から状況が改善し、外国人観光客の受け入れ再開等、観光を巡る動きが盛んになり需要が増加している。国内外から観光目的地としてこのエリアを認知してもらうためのプロモーションも必要であるが、持続可能な観光地域づくりを推進するため観光消費額(消費単価)の向上は特に重要であり、消費の仕組みづくりとして域内の体験コンテンツ、アクティビティを充実させる取り組みを継続する。

一方で、少子高齢化、人口減少に伴う観光の担い手不足が深刻な課題になっており、観光客の満足度は決して低くはないものの、需要に対して十分に答えられない状況にある。

観光事業に携わる新たなプレーヤーの発掘・呼び込みは急務であり、この分野にビジネスチャンスを見出せるよう、観光やビジネスの専門家を招聘して事業者の育成やビジネスアイデアの創出に繋がるようなセミナー・ワークショップ等を継続的に開催していく。

さらには、この地域ならではの文化や資源からサステナブルな学びや気付きを提供する仕組みを構築し、企業研修を始めとしたワーケーションや修学旅行等の誘致にもつなげていく。

◆担当部署自己分析

妥当性評価	12	有効性評価	12	効率性評価	9	総合評価	達成度
町が関与すべき事業か	5	事業は効果的か	4	他に効率的な手法はないか	3	33 / 45	B 相当程度効果的であった
町民のニーズは高いか	4	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	3		
目的・対象は妥当か	3	政策目標の実現に貢献しているか	4	受益者負担は適当か	3		

※評価基準: 1-非効率、不適切 2-検討・改善余地あり 3-どちらでもない 4-効果的、適切である 5-大変効果的、最適である

※担当部署での評価【達成度】: A-非常に効果的であった B-相当程度効果的であった C-効果的であった D-効果的ではなかった E-その他

※担当課評価の達成度は、総合評価点数と連動しない。

◆小坂町地域創生本部による客観的分析

妥当性評価	11.6	有効性評価	11.8	効率性評価	9.3	総合評価	評価
町が関与すべき事業か	4.5	事業は効果的か	3.8	他に効率的な手法はないか	3.3	32.7 / 45	B 相当程度効果的であった
町民のニーズは高いか	3.6	成果が期待できるか	4.0	コスト削減の余地はないか	3.0		
目的・対象は妥当か	3.5	政策目標の実現に貢献しているか	4.0	受益者負担は適当か	3.0		

※評価基準: 1-非効率、不適切 2-検討・改善余地あり 3-どちらでもない 4-効果的、適切である 5-大変効果的、最適である

※地域創生本部での評価: A-非常に効果的であった B-相当程度効果的であった C-効果的であった D-効果的ではなかった E-その他

◆小坂町振興計画審議会による客観的検証

意見	評価
<p>・インバウンド旅行者や修学旅行生の需要の取り込みを始め、本圏域内の豊かな自然・歴史・文化等の魅力の発信は町単独で推進することが困難なことから、広域連携により推進していくことが必要である。</p> <p>・一方で、本事業が町の認知度向上及び経済波及効果にどれほど貢献しているか成果が見えにくいことから、構成市町村別で効果測定を行うなど、事業効果をきめ細かく示すこと。</p>	<p>地方版総合戦略のKPI達成に有効であった</p> <p>本事業は、現行のまま実施した方がよい</p>

※審議会での評価① : A-本事業は、小坂町総合戦略のKPI達成に有効である。 B-本事業は、小坂町総合戦略のKPI達成に有効ではない。

※審議会での評価② : A-本事業は、拡大実施した方がよい B-本事業は、現行のまま実施した方がよい
C-本事業は、改善した上で継続実施した方がよい D-本事業は、縮小・中止した方がよい